

沖繩を唄う。弥勒世を祈る。
みるくゆ

古謝美佐子

大濠公園能楽堂唄会

二〇一八年四月八日(日)

開演 十三時三十分(開場 十三時)

会場 大濠公園能楽堂

福岡市中央区大濠公園一番五号

前売り 四千円(当日 四千五百円)

全席自由席・全席椅子席

※チケットに記載された番号順に、入場のご案内をいたします。
※小学生以下の入場料は半額です。

◎出演 古謝美佐子 唄三線

佐原一哉 キーボード・構成

◎ゲスト 木村清美 琉球舞踊

(安座間本流大北満之会)



大濠公園能楽堂



木村清美



佐原一哉



チケットのお求め、お問い合わせは、琉球料理がちまやあへ。☎092-752-4800

Mail/happy@gachimaya.com Mobile/090-1160-8155 Fax/092-752-4800 facebook 松本 滋

●お電話、メール、ケイタイ、ファックスをくだされば、チケットをお手元に郵送いたします。その際は、郵送手数料100円をいただきます。

●琉球料理がちまやあのみ販売です。プレイガイドでの発売はございません。

古謝美佐子

大濠公園能楽堂 唄会

二〇〇四年、
〇五年、
〇七年、
〇八年、
一〇年、
一二年、
がしまやあは、
古謝美佐子唄会を
お届けしました。
そして一八年は…



古謝 美佐子

1954年沖縄嘉手納生まれ、子供の頃から沖縄民謡に親しみ、初舞台は5才頃、9才でレコードデビュー、1986年、坂本龍一のワールドツアーに参加、1990年からネーネーズのリーダーに。1996年から、ネーネーズのプロデューサー佐原一哉とともにソロ歌手としての活動を始める。2001年、「21世紀の沖縄音楽の夜明けを告げる傑作」と絶賛されたソロアルバム『天架ける橋』を発表。その中の自作詞『童神』は、夏川りみ、山本潤子他、多くのシンガーがカバー。2008年、「自然と人、生と死を歌う、愛の祈りの12曲」をおさめたアルバム『廻る命』を発表。坂本龍一とのオペラ『LIFE』、『チーフタンズ』のアジアツアー、『モンゴル800』のアルバム参加、人形遣いの勘緑氏とのコラボ『人形版 吉屋チル物語』など、活動は多岐にわたる。2014年より、宮里奈美子、比屋根幸乃(共に初代ネーネーズ)に島袋恵美子を加えた4人グループ『うないぐみ』の活動も開始しアルバム『うない島』を発表。最新作は2016年発表の坂本龍一とのコラボシングル『弥勒世界報』。「古謝の唄声は、人を癒し健康を促進する高周波とゆらぎ成分を同時に持つ」という音響研究者の分析も発表されている。沖縄県在住。

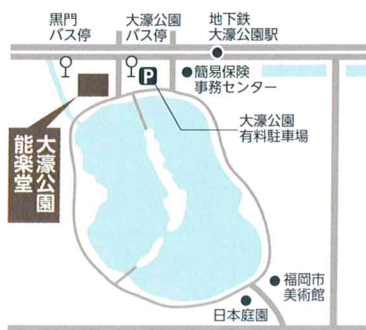


佐原 一哉

1958年北九州市門司区生まれ、音楽プロデューサー。作詞作曲編曲家。キーボード&ギター奏者。沖縄の民謡や関西の河内音頭など伝統的な大衆音楽とかわり、「ネーネーズ」「河内家菊水丸」(河内音頭)などのプロデュースを手がけ、作曲家としては森進一、夏川りみなどに曲を提供、映像音楽作品や著作も手がける。古謝美佐子の独立後は、プロデューサーとして彼女の唄の作曲、作詞、演奏、唄会の構成、CD制作など全般を行う。福岡県在住。

琉球舞踊 木村 清美 安座間本流大北満之会師範

1967年沖縄読谷村生まれ。子供の頃から、会主である母満子より琉球舞踊の指導を受ける。1985年福岡大学進学のため、来福。現在、安座間本流大北満之会師範として、福岡に木村清美琉舞道場を開設。2011年には、「琉球舞踊 二人舞への誘い」を母子で上演。2012年には、国立劇場おきなわにて、沖縄県伝統芸能公演に出演。2017年は、当能楽堂において、琉球古典舞踊の難曲、名曲を一人で舞う、第一回独演会「想い」を公演。がしまやあ主催の「古謝美佐子唄会」、「琉球古典女子楽団 UMINAI」にも出演。海外からの招聘公演もあり、日本イタリア国交150周年記念文化の祭り・インサンジェミニ出演。沖縄への愛情にみちた華やかで品格のある舞踊で、高い評価を受ける。



大濠公園能楽堂へは、

地下鉄でお越しのお客様

大濠公園駅下車3番出口(階段)、6番出口(エスカレーター) 徒歩7分

西鉄バスでお越しのお客様

大濠公園バス停下車 徒歩3分
黒門バス停下車 徒歩3分

お車でお越しのお客様

大濠公園有料駐車場

*大濠公園能楽堂には専用駐車場はございません。
できる限り公共交通機関でお越しください。

お問い合わせ 大濠公園・西公園管理事務所 TEL092-741-2004



琉球料理と島唄と古酒と

■木・金・土 / 17:30~23:00

■日・月・火・水 / ご予約制

<http://happygachimaya.ti-da.net/>

福岡市中央区渡辺通5-14-10 701